

普及現地情報



発信年月日：令和4年(2022年)10月14日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A22006

部門分類：120 麦・豆・雑穀

発信者名：山田、柴田

小麦新品種「びわほなみ」推進中！

栗東市の小麦平均単収は340kg/10aと全国平均433kg/10aと比べると低く、また、令和3年産の品質は1等Cランクと年次間差が見られ、収量・品質の高位安定化が求められる状況でした。

そこで、栗東市では「農林61号」から収量性に優れ実需者ニーズの高い「びわほなみ」に令和4年産より全面転換されており、当課は関係機関と連携し農業者の支援を行ってきました。内容としては、①確実な排水対策を実施する②生育後半に重点的施肥を行い品質を向上させる③赤かび病対策には2回防除必須に加え、県病害虫防除所から注意報が発令された場合は3回目を行うなどの実践を促しました。令和4年産の結果として、赤かび病は問題ない範囲に抑えられ、地域平均単収は450kg/10aとなり、品質も1等Aランクとなりました。

10月5日(水)に麦生産者を対象とした「びわほなみ」播種前研修会を開催したところ65名の参加がありました。研修会では、令和4年産の結果をフィードバックするとともに、試算表を作成し、「びわほなみ」に転換したことによるメリットを感じてもらえるよう心掛けました。「びわほなみ」生産者からは「今年びわほなみで500kg/10a近く取れて良かった」や「排水対策をさらに徹底したい」などの前向きな意見を聞くことができました。



写真 「びわほなみ」播種前研修会の様子

令和5年産は栗東市に加えて、大津市の一部地域でも作付けされる予定です。今後も当課は「びわほなみ」への円滑な品種転換に向けて関係機関と連携し支援していきます。